

《第 501 回(2023 年 4 月 13 日) 子どもの本の読書会記録》参加者:8人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『飼育員さんのすごいこたえ』 淡路ファームパークイングランドの丘/著 ワニブックス

4月の課題図書は、ある動物園で企画された生き物に関する質問回答コーナーを本にしたもの。こどもたち、ときには大人から寄せられる様々な内容の質問に、飼育員さんが真摯に、そしてユーモラスに回答しています。回答とともに載っているイラストもとてもリアルで、実物を見てみたいくなります。生き物の「すごい!」や「ちょっと怖い…」多様な質問と、それに対する的確な答えが楽しめる本です。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●楽しく読めた。昔はできなかった飼育員さんとの交流ができる本だと思った。ペリカンになりたい、どうすればいいかという質問には、丁寧に答えながらもオチがあって楽しめた。科学的な回答もありながら、イラストやくすすと笑える答えにほっこりした。目からウロコの答えもあり、勉強になった。絵が工夫されていて、絵が描きたくなった。

●科学本が好き。『生協の白石さん』(白石 昌則/著 講談社 2005)みたいだと思った。まじめに答えつつ、面白さもある。敢えて聞いたことがなかった素朴な疑問の答えや今まで知らなかったことを知ることができた。大人もこどもも楽しめる本。図鑑ではわからないことがわかる。動物に興味を持つきっかけになる本だと思う。

●一つ一つの答えに飼育員さんの横顔が見える。動物はなぜ人間よりも早く死ぬのか、という質問では、『ゾウの時間ネズミの時間 サイズの生物学』(本川 達雄/著 中央公論新社 1999)を思い出した。コラムも丁寧に書かれている。今は生き物に接する機会が減っている。出かける前に生き物のことを調べる本としても良いと思う。

●知らないことが多かった。飼育員さんの見えない工夫や努力に触れることができた。人間はそれまでかけた時間をもったいないと一度始めたことをあきらめるのが難しいが、生き物は子孫を残すことが大事で、あっさりとして次に移ることができる。戦争を早く終わらせるなど、悲劇を広げないためには必要な考え方だと思った。

●飼育員さんが楽しみながら、工夫をして回答している。うりぼうの縦じま横じまの考え方にびっくりした。地球外生命体はいると思うかとの質問や、作家の小川洋子が紹介していたハダカデバネズミなどが楽しかった。飼育員について、コミュニケーションのとれる人が良い、大工仕事が得意、などあったが、他の職種にも通じることだと思った。

●合間にパラパラと読むことができ、軽く楽しい気持ちで読めた。動物に抱いていたイメージとは違う部分を知ることができた。大人からの質問にもきちんと答えていて笑えた。この動物園のほのぼのとした感じが伝わる。こどもからの質問はかわいくて、いろいろなことに興味を持つんだと思った。

●あらゆる生き物に関する質問と、それに対するユーモアを交えた回答に顔が綻んだ。大人もこどもも「へえ、そうなんだ」と思う回答がたくさんあり、生き物への興味が広がる。オンブバッタの上に乗っているのが、オスだという回答がショックだった。紹介されている動物を実際に見てみたいと思った。

●さかなが水圧につぶされないのはなぜか、といったこどもたちからの質問内容にも驚かされた。こどもたちの生き物に対する好きが伝わる。また、蛇はなぜ足がないか、ペンギンはなぜ飛べないのか、という質問への回答からは生き物の進化の過程を知ることができた。

次回 5月11日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『パンに書かれた言葉』 朽木 祥/作 小学館

※申込み・参加費は不要です。